

ほろにか

令和5年10月16日
全国卸売酒販組合中央会

「北陸新幹線への期待」

北陸三県卸売酒販組合

副理事長 鎌谷 孝之

(全国卸売酒販組合中央会 総合企画委員会委員)

「かがやき」、「はくたか」と言えば、北陸新幹線の列車愛称ですが、ほかに東京・長野間の「あさま」、富山・金沢間の「つるぎ」があります。

北陸新幹線は、1973年（昭和48年）に整備計画が決定され、1998年（平成10年）2月の長野オリンピック開催に合わせて、1997年（平成9年）10月に高崎・長野間が開業しましたが、この時点では北陸まで繋がっていなかったため、長野新幹線と呼ばれており、整備計画から42年後の2015年（平成27年）3月に長野・金沢間が開業し、やっと北陸新幹線の呼称が誕生しました。

北陸新幹線の開業とともに、主に首都圏から多くの観光客が金沢をはじめとした北陸地方を訪れるようになり、観光需要により酒類業界も大いに潤いましたが、終点が金沢駅であったため、当社がある福井県では、その恩恵に預かる機会は僅少でした。

あれから9年、遂に来年3月16日に、北陸新幹線金沢・敦賀間が開業となります。新型コロナウイルス感染症により観光需要が激減し、飲食業をはじめとする酒類業界は大打撃を受けましたが、感染症の区分が5類に引き下げられ、観光客もコロナ禍前に匹敵するほどの回復を見せており、当時の活況が再び蘇ることに期待を寄せています。

こうした中、当組合においては、北陸新幹線延伸開業に伴い、インバウンドを含む観光客の更なる増加が見込まれることから、富山・石川・福井県の酒造組合と連携して、観光需要に適した統一規格ボトルを商品化し、「2024 北陸新幹線延伸開業記念ボトル」として、観光客等を通じた「北陸の地酒」の需要拡大と情報発信を行う企画を策定し、準備を進めています。

これまでも各県の酒造組合が中心となった需要振興策はありましたが、北陸三県で一本化された企画はなく、日本酒造組合中央会北陸支部と協議するとともに、全国小売酒販組合中央会北陸支部とも協力体制を構築して事業を展開しています。

具体的には、北陸三県の蔵元 56 蔵が参加し、富山県・石川県・福井県の地域性のあるラベルで彩りを添えるとともに、3 本入りの専用カートン、飲食店への需要喚起やインバウンド対策としての施策を検討し、予算の範囲内で「HOKURIKU CRAFT SAKE」、「Japanese SAKE」の需要振興に繋げることとしています。

令和 5 年 10 月 6 日「国税庁新市場開拓支援事業費補助金（フロンティア補助金）」採択事業者に決定しました。

一方、当社がある福井県越前市にも北陸新幹線「越前たけふ駅」ができますが、在来線との接続に距離があり、開発計画はあるものの、今は田んぼの真ん中です。今後、大阪、名古屋へは、乗り換えが発生するなど接続が億劫で、福井県民としては、若干不安もありますが、「越前ガニ」は本当においしく、福井県酒造組合には、「黒龍」、「梵」をはじめとした 27 蔵元があり、地元食材とのペアリングは最高で、一度は味わう価値があると思います。

また、勝山市にある「福井県立恐竜博物館（日本）」は、「ロイヤルティレル古生物学博物館（カナダ）」、「自貢恐竜博物館（中国）」とともに**世界三大恐竜博物館**と言われおり（Yahoo!調べ）、県内のいたるところのベンチには、何故か白衣を着た恐竜のオブジェが添えられています。

福井駅前には、福井で生息していたフクイラプトル、フクイサウルス、フクイティタンの 3 体の実物大で動く大型モニュメントのお出迎えもあります。北陸新幹線の新たな開業を機に、全国卸売酒販組合中央会に集う皆様の恐竜王国福井への来訪を心からお待ち申し上げております。